

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-255974

(P2009-255974A)

(43) 公開日 平成21年11月5日(2009.11.5)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 21/06 (2006.01)	B 6 5 D 21/06	3 E 0 0 6
B 6 5 D 21/02 (2006.01)	B 6 5 D 21/02	A

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願2008-131331 (P2008-131331)	(71) 出願人	508148703
(22) 出願日	平成20年4月18日 (2008. 4. 18)		中務 和雄
			埼玉県さいたま市桜区西堀4丁目11番7号1205
		(72) 発明者	中務 和雄
			埼玉県さいたま市桜区西堀4丁目11番7号1205
		Fターム(参考)	3E006 AA01 BA02 BA10 CA01 JA10

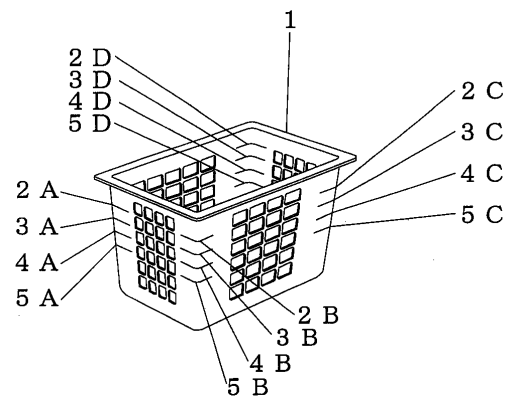
(54) 【発明の名称】 カゴ

(57) 【要約】

【課題】 開口部が底部に比し広がっているカゴでは、仕切り板などを内部に別途用意しなければ品物を入れた状態で重ねることができなかった。

【解決手段】 カゴの側面の各角部に複数の切れ込みを入れ、切れ込みに挟まれた部分を内側に押し込み突起を作る。この突起を上部のカゴ受け部とすることにより、仕切り板などが不要となる。切れ込みを選択することにより上部カゴと下部カゴの間の高さ調整ができる。内部にできた突起を押し戻せば従来の形状となり、重ね保管により保管スペースが少なくて済む。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

開口部が底部に比し広くなっているカゴ（１）の側面の角部に複数の切れ込み（２Ａ）～（５Ｄ）を入れ、その切れ込みに挟まれた部分を内側に押し込むことによりできた突起に上部に載せるカゴの受け部の役割を持たせたカゴ。

【請求項 2】

上記突起は別途上部に載せる同型のカゴの足（７）が嵌合できるようにし、載せたカゴの水平方向の移動を防ぐようにした構造のカゴ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

10

【0001】

側面のカドの部分に複数の切り込みを設け、その切れ込みに挟まれた部分を内側に押し込むことによりできた突起に上部に載せるカゴの受け部の役割を持たせたカゴ。

【背景技術】**【0002】**

従来、主にポリプロピレンなどの材質でできたカゴに見られる開口部が底部に比し広くなっている形状は、工場での生産後、在庫、流通などで重ねることにより占有スペースが少なくなくて済む、という経済的なメリットによるものである。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】**

20

【0003】

この形状では、次のような欠点がある。

（イ）カゴに別のカゴを載せると上のカゴの底部が下のカゴの底部近くまで入るため、下のカゴ中に品物を入れた状態で重ねる事ができない。

（ロ）下のカゴに品物を入れた状態で重ねるには、潰れても良い品物に限定しなければならない。

（ハ）潰れては困る品物の場合は、下のカゴに品物の高さに合わせた仕切り板や支え棒などを別途用意し、下のカゴと上のカゴの間に必要な高さを確保する必要がある。

（ニ）この別途部品を用意する方法は製造コストが増加するうえ、品物の中に入れずにカゴを重ねるときはこの別途部品が邪魔になる。

30

【課題を解決するための手段】**【0004】**

第一の発明は、開口部が底部に比し広くなっているカゴ（１）の側面の角部に複数の切れ込み（２Ａ）～（５Ｄ）を入れ、その切れ込みに挟まれた部分を内側に押し込むことによりできた突起に上部に載せるカゴの受け部の役割を持たせる。内部に品物を入れない時など受け部が不要であれば、押し込まれた突起を外側に押し戻すことにより元の形状になる。

第二の発明は、上記突起（受け部）は別途上部に載せる同型のカゴの足（７）が嵌合できるようにする。

【発明の効果】

40

【0005】

第一の発明によれば、中に入れる品物に合わせた高さの切れ込みとその下の切れ込みを選らんで中に押し込み、出来た突起に受け部の役目をもたせることにより、仕切り板や支え棒などが不要となる。また、受け部を外側に押し戻せば元の形状となるので従来どおり重ね合わせることができる。

第二の発明によれば、受け部は別途上部に載せる同型のカゴの足（７）が嵌合するので載せたカゴが水平方向にずれるのを防ぐことができる。

【発明を実施するための最良の形態】**【0006】**

カゴの側面角部に切れ込み（２Ａ）、（２Ｂ）、（２Ｃ）、（２Ｄ）を底部に平行にいれ

50

る。同様に（３Ａ）、（３Ｂ）、（３Ｃ）、（３Ｄ）、（４Ａ）、（４Ｂ）、（４Ｃ）、（４Ｄ）、（５Ａ）、（５Ｂ）、（５Ｃ）、（５Ｄ）も底部に平行に切れ込みを入れる（図１）。

例えば（図５）のように（２Ａ）と（３Ａ）、（２Ｂ）と（３Ｂ）、（２Ｃ）と（３Ｃ）、（２Ｄ）と（３Ｄ）の間を内側に押し込むと内部に突起ができ、上部に同種のカゴの受け部となる。したがって、切れ込みの深さは、切れ込み部を押し込んだとき上部に載せるカゴの足（７Ａ）、（７Ｂ）、（７Ｃ）、（７Ｄ）が嵌合できるようにする（図６）。

これにより、別途仕切り版や支え棒などが不要となる。

この押し込まれた内部の突起を外側に押すことにより、元の形状に戻り（図１）、従来どおり重ねて少ないスペースで保管することができる。

カゴ全体を同一材料で作ったときは角に切り込みを入れるだけであり、殆どコスト増は無い。もし、カゴ内部に押し込む部分を強度や柔軟性を増すため別材で作り組み込む場合はコスト増となるが、別途仕切り板や支え棒なしに必要なとき受け部が作れ不要であれば元に戻せるという利便性は変わらない。

また、本発明はカゴの形状が半球状（図７）、円錐形などのように開口部が底部に比し広い形状のものに応用できる。

【図面の簡単な説明】

【０００７】

【図１】本発明の斜視図である

【図２】本発明の平面図である

【図３】本発明の正面図である

【図４】本発明の側面図である

【図５】本発明の斜視図である（最上部の切れ込みおよび、その下の切れ込み部に挟まれた部分を内側押し込んだ状態の図）

【図６】本発明の側面図である（２段重ね）

【図７】本発明の斜視図である（半球状の形態）

【符号の説明】

【０００８】

１ カゴ

２Ａ～５Ｄ 切れ込み

６ 底部

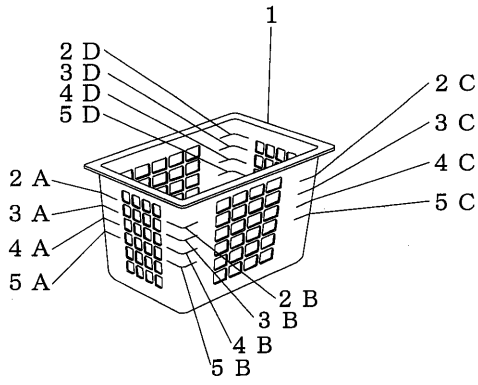
７Ａ～７Ｄ 足

10

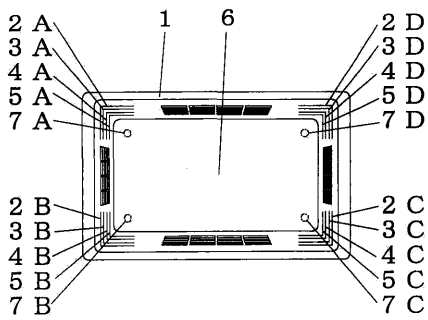
20

30

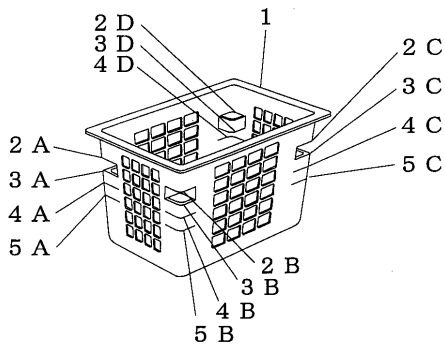
【図 1】



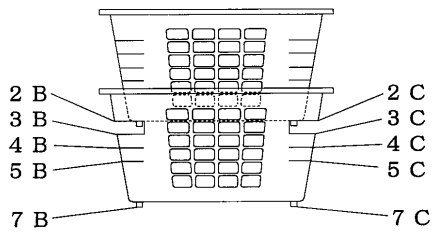
【図 2】



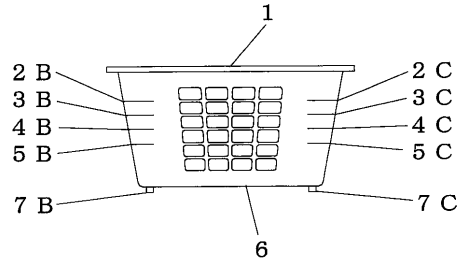
【図 5】



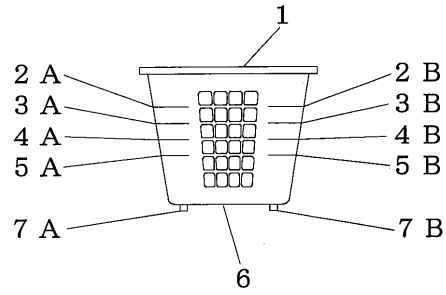
【図 6】



【図 3】



【図 4】



【図 7】

